

2026年3月1日（日）「おしゃべり鑑賞会」開催報告

参加者は3名で、うちお二人は初めてのご来館でした。喫茶室にて簡単な説明をした後、コレクション展「花とヴェネチア」を15分程見て、各自気になる作品を2点ずつ選んでいただきました。その後、選んだ作品を3人で順番に見ながら、気になった所などを端緒に「おしゃべり」を展開していきました。今回もユニークな意見が出て、新たな発見のある鑑賞会となりました。終了後は土蔵展示室で、絵に描かれているテーブルなども見学しました。

<月夜の縞馬> 1936年

2頭の馬はカップルで、仲良く月を見上げている。

縞馬の縞が空間に溶け込んでいるように見える。

暗い色調だが、なぜか清々しい。縞馬だが、背景は草原ではなく浜辺に見える。

縞馬から紐のようなものがたくさん出ている。紐や縞はしがらみで、実は馬は拘束から逃れている。馬の顔のあたりは明るく描かれているので、希望を感じる。

人物の描き方が不思議。右の塊は家族に見える。

<室内> 1939年

明るくて自分の部屋に飾りたいような作品。絨毯なのに上から垂れ下がっているようだが、色調が全体に整えられてバランスが取れている。

中央に描かれているのは実は絨毯ではなくて、家具ではないか。

ほかの作品と違ってとても薄塗り。

家具が変わっている。

<ブルゴーニュにて> 1989年

実は後ろに猫がいて、それに驚いて鳥が飛び立ったのかもしれない。

鳥は鶉に見える。左側の暗い部分は森で、右側は水辺。鶉が何かに驚いて森の方へ飛び立った瞬間。

右端に大きめの翼が見える。大きな鳥が近寄ってきて驚いたのかも。

<細い運河> 1974年

運河の奥からジェームズ・ボンドが船に乗って飛び出してきそう。→こちら側から奥に進む視点しか考えていなかったの、まったく逆の視点で面白い。

手前にある明るい白と水色の線は何か？→空が映り込んでいるのは、空よりも水辺に移る空のほうが明る

く描かれている。

<花> 1989年

下に描かれている人物はカップルで、赤いバラが愛を象徴している。服装がエジプトの人っぽい。

壺は茶色の素焼きで、エジプトかギリシャの古代の人物に見える。

赤い花は葉がないのでガーベラかも。

